

## 肺がん治療の副作用により自宅生活が困難になり かんたきでのリハビリで ADL が改善した症例

利用者情報      70 歳代      女性      病名：肺がん      介護度：要介護 3

本人の希望：身の回りの事が出来るようになりたい。

リハビリ目標：他の利用者と共に過ごす時間を延長する（社会性の向上）

移乗・移動の介助量減少

### 介入開始時

病院から退院した直後は、認知機能低下・筋力低下を認めました。

自発性や意欲もなく、ほとんどの時間を自室のベッドで過ごしていました。

リハビリでは、車椅子移乗訓練から開始し離床時間の延長を図りました。車椅子乗車が可能になってからは、日中を他の利用者も居る共有スペースで過ごせるように促しました。



### リハビリ評価

筋力：下肢筋力 MMT 3 (5点満点)

FIM：合計 51点 (運動 31点、認知 20点)

トイレ	歩行	理解	表出	記憶
1	1	4	4	4

## 介入後

離床機会が増加することで入院時に低下していた機能が徐々に向上を認めました。

自身で出来る動作も増えたことで前向きな発言も増加しました。

かんたき施設内では、障害物もなく手すりがあるため、ケアスタッフや看護師による人的介助での歩行を安全に実施することができました。そのため、日中もケアスタッフや看護師とともに離床する機会が増加し、かんたき内でのレクリエーションに参加することも出来るようになりました。



リハビリでは、自宅を想定した杖歩行訓練を積極的に実施しました。

自宅生活を想定することで本人の達成感にも繋がり意欲的に取り組んでいただくことができました。



## リハビリ評価

下肢筋力： MMT 4 (5点満点)

FIM:合計 90点 (運動 58点、認知 32点)

トイレ	歩行	理解	表出	記憶
5	4	7	7	7

## 【まとめ】

かんたきの特徴を活かし個室と共有スペースを使い分けることで本人の負担を軽減しつつ積極的な離床を行うことができました。かんたき内で自宅での生活を想定することで本人の意欲を維持した状態でのリハビリも実施することができました。

自宅での生活が可能となった後に本人から、「孫の結婚式に列席したい。」と新たな目標を引き出すこともできました。その後、無事結婚式に列席することができました。